

Mexican Laelia anceps

メキシコのレリア・アンセプス



ピコデオリザバ山

1835年（何と170年前）に初めてイギリスで園芸学会に発表されたレリア・アンセプスはアメリカのすぐ南、メキシコまで行くといまだに野生で生えています。アンセプスはメキシコの太平洋側からメキシコ湾側まで東西に広く分布し、南は国境を越えグアテマラでも見る事ができます。

分布が広い原種ですから自生している場所によって色々なタイプに分かれます。ゲレロ、ダウソニー、といった名前を目にする事もあると思いますが全てアンセプスの変種になり、それぞれメキシコの中で生えている場所が異なります。

今回ご紹介するのは、メキシコ湾側にあるベラクルス州に生える一番アンセプスらしいアンセプスです。メキシコシティよりメキシコ湾側へほぼ真直ぐ東へ5時間ほど行ったところにフォーティン・デ・ラス・フローレス（通称：フォーティン）というアンセプスの産地としては有名な町があります。まだアメリカ蘭協会の会報がモノクロ印刷だった頃に記事が載っていますが、開花期になるとそれはもう町中アンセプスの花でいっぱいであったようです。現在はやはり都市化が進み町の近くでは見られませんが、1時間ほど郊外へ車を走らせると牧場の中に点在する原生林でアンセプスを見る事ができます。

訪れた時期は5月と11月、株の育ちはじめの頃と開花期に分けて訪れました。フォーティンの町は標高940m、日中は少し汗をかく程度の気温で夜間はかなり冷え込みます。地域的には亜熱帯になりますので雨期と乾期がはっきりと分かれる場所です。5月中旬から10月中旬までが雨期、10月終わりから5月初めまでが乾期なり、アンセプスを始め全ての蘭は乾期の終わりに新芽を出し始め雨期の間ぐんぐんと育ち、乾期が訪れると花を咲かせます。雨期

という日本の梅雨を思い起こしそうですが、毎日さっと雨が降り、あとは良く晴れるのが熱帯・亜熱帯の雨期です。また乾期といってもアンセプスの生える場所は、住民の言葉でチピチピと呼ばれる霧雨が降り、水分補給の役目をするようです。日当たりはかなり良く、一部日陰に着生している株も見られますがあまり育ちは良くなさそうです。この近くにはリンコレリア・グラウカ、エンシクリア、ブラッシア、カタセタムなど様々な蘭も生え、全てアンセプスと同様の気候で育っています。アンセプスを始めこれらの蘭は冬の寒さにも強く、現地では10度以下になる日も少なくないようです。

アンセプスは交配にもよく利用され、特徴的な星形の花型と長い花茎、そして丈夫な性質が受け継がれています。最近の交配では花茎もかなり短くなり、星形の花型が程良く丸い大輪花にミックスした品種もできてきました。見かけよりはずっと丈夫で育てやすいアンセプスやその交配種をぜひ育ててみてください。

自生地近くの民家で見かけた巨大な株



フォーティン郊外アンセプスの自生地



牧場の中に残った大木にしがみつくとアンセプス



幹にまとわりつくようにびっしりと着生するアンセプス



近くで見かけた開花しているエンシクリア(5月)



まるで鉢植えのような株姿のリンコレリア・グラウカ



11月開花の始まり

これも近くで見たブラッシア・ベルコーサの巨大な株(5月)

